



後輩に伝えたい! **ボランティアの楽しさとやりがい**

「地域に飛び出す!」
多賀城高校ボランティア同好会



tag vol.20

NPO 法人ボランティアインフォが多賀城高校で実施している「ボランティア教育プログラム」で、多賀城高校出身の相澤真帆さんがインターンとして生徒たちをサポートしています。在学中にプログラムに参加し、地域の人と一緒に取り組んだイベントなどを通して知った楽しさややりがいを、後輩たちに伝えたいと思いインターンになりました。

相澤さんは現在宮城大学の1年生。多賀城高校でのインターン以外にも「高校の枠を越えて高校生が集まって活躍できる場を作りたい」と話してくれました。

プログラムに関わって感じたのは「高校生の発想力はすごい!」こと。「熊本とのタッグ」や「あやめまつりとのコラボ」など、たくさんのアイデアが出てきたそうです。その分、企画づくりのサポートがたいへんでしたが、1年間の取り組みを通して生徒たちは多くのことを学べたと感じています。

来年度は、今回の経験も活かして的確にアドバイスし、生徒たちが考える地域づくりの企画や実践がよりよいものになるようサポートしたいとお話してくれました。



tag vol.40

「経験を力に! 高校生が踏み出した地域への一歩」



今年度の「ボランティア教育プログラム」は、1年生の「課題研究」の授業の一環で行い、生徒9名が参加。はじめにボランティア体験を行ったのち、多賀城の現状や自分たちができることを考えて「まちあるきガイド」と「ゴミを減らす取り組み」の2つを企画し、実践しました。

ヒント from “たがさぼPress”
たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

- **高校生が、社会課題の解決にチャレンジ!** 2017年1月12日(木)掲載
高校生たちが感じた、地域や身のまわりの課題・気になることをテーマに、企画立案や実行を通して学んでいく「マイプロジェクト」をご紹介します。
- **きちんとふりかえり、次へつなげる!** 2017年1月17日(火)掲載
事業を行っておしまいでなく、ふりかえりを行い、次の企画に反映させていく「PDCAサイクル」を取り入れることで、より効果的な事業づくりができます。
- **若者が自分の未来に希望を持てる社会を目指して** 2017年1月19日(木)掲載
認定NPO法人DxP(ディーピー)は通信制・定時制高校での授業を通して、次代の若者たちに「つながり」と「成功体験」を届ける取り組みをしています。

たがさぼからのお知らせ
たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

祝! 「tag」創刊50号
tag メモリアル展示会

2013年1月に創刊した、たがさぼ発行の情報誌「tag」。この2月号で50号を迎えることを記念して展示会を開催します。これまでの誌面をすべて展示するとともに、あっと驚く企画でお待ちしています。多賀城で活動している団体・人についてもっと知りたい、地域で何かは始めるにあたっての参考にしたいという方はぜひご来館ください。

日程	2017年2月16日(木)~3月14日(火)
会場	多賀城市市民活動サポートセンター 2階ギャラリー・1階エントランス
問合せ	022-368-7745 (多賀城市市民活動サポートセンター)

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぼPressへ! *ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



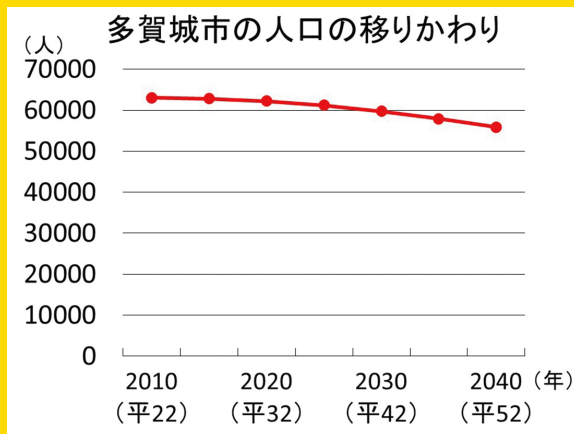


地域のこと、他人ゴトから自分ゴト、みんなゴトへ

全国的に進んでいる「人口減少」「少子高齢化」によって、地域活動の状況も変わってくると言われています。今回は、多賀城市の人口の現状や予測も踏まえつつ、受けるであろう影響や今から取り組める方策について考えます。

多賀城の将来の人口は？

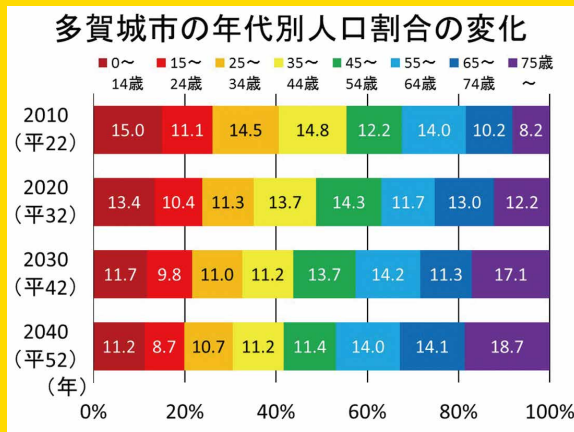
総務省統計局の「人口推計」によると、日本の総人口は2010（平成22）年を境に減少しています。多賀城市においては時期をほぼ同じくして減少が始まり、2040（平成52）年には約5万6千人になるという予測が国立社会保障・人口問題研究所から出ています（右上の折れ線グラフ参照）。また年代別に見ると、15歳以下の子ども世代を含めた若い層の割合が年々下がっていく一方で、高齢者（65歳以上）の割合が増え、2040年には人口の約3分の1を占めると考えられています（右下の帯グラフ参照）。このように、多賀城市でも「人口減少」「少子高齢化」は避けることのできない状況になっていきます。



地域活動はどうなる？

町内会は、より暮らしやすい地域づくりを目的に住民自らの手で運営されていて、活動内容も防犯・防災、環境整備、福祉や住民同士の親睦など多岐にわたっています。人口の減少によって、このような活動にも影響が及びます。現在でも「活動の担い手や参加者が少ない」という悩みを持つ町内会もある中、「必要不可欠な活動だが、手が回らなくなる」ケースも将来出てくるかもしれません。

高齢者の増加に関しては、退職を機に地域に関われる人が増えるという可能性もあります。ただ、支援を必要とする人が増加する反面、支える側の若い世代の減少が想定され、日常生活や災害時などの支えあい体制づくりも課題のひとつになると考えられます。



上の2つのグラフは、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」をもとに多賀城市市民活動サポートセンターが作成しました。

まず取り組めることは？

まずは、参加や手伝いなどの形で地域の活動に関わる人を増やすこと。そのためには、ご近所の顔見知りが増えるなどのメリットや必要性を示して「では参加しよう」と思ってもらうこと、そして小さくても何らかの役割を持ってもらうことも一案です。また、個々の負担を軽減することで多くの人に担い手になってもらうために、活動の優先度や必要性を考えて計画を練ることも必要になってきます。

「誰かがやってくれる」ではなく、今のうちからひとりひとりが「どのような地域だと暮らしやすいか」「そのために本当に必要な取り組みは何か」をいろんな立場の人たちで話し合い、地区全体で将来像を持って活動すること。このことが、将来にわたって暮らしやすい地域づくりのカギになります。

「たがさぽPress」の この記事もご覧ください！

- 『『小規模多機能自治』という考え方』
2016年9月6日（火）掲載
- 『小規模多機能自治という考え方～応用編～』
2017年2月7日（火）掲載



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>